




○按ズルニ、猪口ハ鍾ノ字音ヨリ起リ、其形ヲ摸シテ、菜ヲ盛ル器トセルナリ、

〔貞丈雜記膳部〕一今時の漆ヌリ碗ハシの内に、こしだかとして、如此なる物あり、是はかはらけの下に、輪

を置たる形を作りたる者也、又つぼざらとして、如此なる物あり、又ひらざらとして、如此なる物あり、此つぼざら、平ざらと云物は、わけ物の形をうつして作りたる也、

〔四季草酒食〕平皿 壺皿 腰高

碗に平皿、壺皿、腰高といふ物あり、式正の膳には、さいも皆かはらけにもるなり、煮汁の多くある物は、かはらけにてはこぼる、ゆゑ、杉の木ノのわけ物に盛なり、そのわけ物の平ヒラきをかたどりて、平皿を作り、其わけ物のつぼふかきをかたどりて、つぼ皿を作りたるなり、そのわけ物にかつらとして、白き木を糸の如く細く削りて、輪にしてわけ物の外にはめるなり、平皿、壺皿の外に、細く高き筋あるは、かのかつらを入たる體をうつしたるなり、腰高の形は、かはらけの下に、檜ヒノの木ノの輪を臺にしたる形をうつして作れるなり、かはらけには必輪を臺にして置く物なり、是をタカ高杯ツキと云ふなり、

〔婚禮道具諸器形寸法書人〕平皿

蓋 差渡四寸五分、總高九分、内コウ臺高二分五厘、同差渡一寸六分五厘、

身 差渡四寸三分、總高一寸七分、内コウ臺高三分、同差渡二寸二分、

坪皿

蓋 差渡三寸八分、總高九分、内コウ臺高二分半、同差渡一寸四分半、

身 差渡三寸五分、總高二寸四分、内コウ臺高三分、同差渡一寸七分五厘、

腰高

差渡四寸、高二寸、内コウ臺高一寸一分、同差渡二寸三分、